#### 取組の概要

取組の概要 : 大豆の安定生産・品質の向上を推進

計画作成主体:北見市農業再生協議会

対象品目 : 大豆 (産地面積:201.18ha)

主な取組主体: 端野町大豆刈取組合

株式会社イソップアグリシステム

成果目標:販売額の10%以上の増加

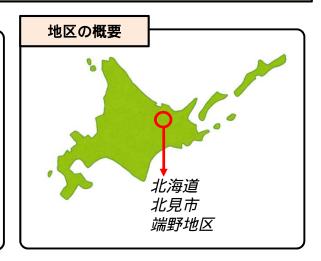
(10a当たり)

助成金の活用:生産支援事業(大豆用コンバイン)

状況

#### ポイント

畑作物の適正な輪作体系の確立、省力的な収穫体制の整備、ICTの活用などスマート農業の推進による生産コスト削減などを推進し、大豆の販売額の14%増加を図る。



### 産地の現状と目標

現状:H26年度

〇作付面積:130ha(農業者:31名)

生産量:292t

〇規模拡大に伴い、省力的な小麦の作付 けが増加しており、輪作体系が崩れてい

る。

目標:H30年度

○作付面積:201.18ha(農業者:37名)

生産量:466t

○畑作物の適正な輪作体系の確立のため

大豆の作付拡大に取り組むともに、効率的・継続的な大豆生産体制を構築する。



# 推進体制

北見市、きたみらい農業協同組合、 農業改良普及センター、ホクレン農 業協同組合連合会等が、各取組主体 と連携し、事業を推進。

# 地域における独自の取組

# 主な取組

端野町大豆刈取組合において、 過作である小麦の一部を大豆に転 換するとともに、品種を「とよみ ずき」に統一。

○ (株)イソップアグリシステムに おいて、実需者ニーズに応じた大 豆生産の推進と全量契約栽培を実 施。

### 事業効果

収穫機を導入することにより、適期 に収穫する体制が確立でき、品質の 向上が見込まれるとともに、作業の 省力化も図られることで作付面積の 増加にもつながる。

このことにより、農業者の所得向 上につながり、産地の収益力向上が 図られる。

